

① 町長が目指す人材の育成について

今年、10月30日付の毎日新聞の社説に、『国会、地方議会ともに議員の「質の劣化」が指摘されて久しい』と書かれていた。このように、人、リーダーの有り方はどのような組織体にも通ずるものだと思われる。

住民曰く、「この頃職員が生き生きしている」との指摘があったので、「町長の指導力のおかげでしょう」と答えたら、住民曰く「仕事をしなくてよいから」とのことであった。

私は先般来、北海道夕張市の財政破綻の件を持ち出してきたが、これは、結果として財政が行き詰ったことであって、潜在的な問題としては、中身のある人材がいるかどうかということである。

夕張市のようにならないためにも、町長としての力量が試されるわけである。「幸福度日本一」を求め、どのような町長を目指しているのかお尋ねする。言うばかりではなく行動が必要であり大切である。また、人材をどのような角度から育成しているのかお尋ねする。

② ごみ行政について

ごみ、資源化物、粗大ごみなどの収集業務は、水道事業と同様、町の最大の仕事であるが、今後どのような取り組みを計画しているのかお尋ねする。また、団地の高齢化は深刻な問題となってくる。特段の対策を考えているのか。

③ 新教育長の教育姿勢・方針について

「文教の町ながよ」を掲げている長与町であるが、この9月に就任された新教育長の下記事項の所信についてお尋ねする。

- (1) これからの教育行政に対する姿勢・方針をお尋ねする。
- (2) 緑ヶ丘団地の校区の見直しはどう考えているか。
- (3) 児童・生徒の暴力、いじめなどが報道で指摘されていたが、本町の対応はどうか。
- (4) 各小学校区に青少年育成協議会が設置されているが、役割は終えたような気がするが、どう考えるか。
- (5) 町民体育祭の役割も終えたような気がするが、どう考えるか。